

デュポンハーモニー75DF水和剤（農林水産省登録番号 第18081号）

ハーモニー75DF（農林水産省登録番号 第24136号）

令和2年11月11日現在

適用病害虫の範囲及び使用方法

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	チフェンスフロロンメチルを含む農薬の総使用回数
				薬量	希釈水量			
小麦	—	一年生 広葉雑草	春播栽培の 小麦3～5葉期	3～5g /10a	100L /10a	1回	雑草茎 葉散布 又は全 面散布	1回
		ギンギン類	秋播栽培の 幼穂形成期 但し、収穫 45日前まで					
		一年生 広葉雑草 スズメテッポウ	は種後 ～麦2葉期	5～10g /10a	50～ 100L /10a			
			麦3葉期 ～節間伸長前					
		一年生 広葉雑草	節間伸長開始期 ～穂ばらみ期 但し、収穫45日 前まで	3～10g /10a	50～ 100L /10a			
カスノグサ	麦1葉期～ 節間伸長前	10g/10a	100L /10a					
大麦	—	一年生 広葉雑草 スズメテッポウ	は種後 ～麦2葉期	5～10g /10a	50～ 100L /10a			
			麦3葉期 ～節間伸長前					
牧草	牧野、 草地	一年生 広葉雑草 ギンギン類	採草21日前まで (雑草生育期)	3～5g /10a	100L /10a			
			新播草地定着後 但し、採草 21日前まで	0.5～1g /10a				
飼料用 とうも ろこし	—	ギンギン類	耕起7日前まで (雑草生育期)	2～4g /10a	50～ 100L /10a			
			飼料用 とうもろこし 2～4葉期 (雑草生育期)	2g/10a	100L /10a			

[ハーモニー75DFのページに戻る](#)

【成分】 チフェンスフロロンメチル 75.0%
 鋳物質微粉、界面活性剤等 25.0%

【性状】 淡褐色水和性微粒及び細粒

効果・薬害等の注意

- 所定量の薬剤を所定量の水に加え、よくかき混ぜてから均一に散布する。
- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきる。
- 調製した薬液は速やかに使用する。
- 連年施用するとスズメノテッポウに効果が劣ることがあるので、有効な薬剤との組み合わせ、又は輪番で使用する。
- 麦類に使用する場合、
 - 1) 必要に応じて展着剤を加用する。
 - 2) 薬量 5～10 g で使用する場合、単用処理では、10 アール当たり 7.5～10g での使用が望ましい。
 - 3) 体系処理の場合は、必要に応じて有効な前処理剤または後処理剤との組み合わせで使用する。
 - 4) 春播栽培の小麦に使用する場合、イネ科雑草には効果が劣るので、イネ科雑草に有効な薬剤との組み合わせで使用する。
 - 5) カズノコグサに単用で使用すると効果が劣る場合があるので、必要に応じてイネ科雑草に有効な薬剤との組み合わせで使用する。
 - 6) 本剤の散布適期はスズメノテッポウ 5 葉期まで、カズノコグサ 1～3 葉期であり、生育の進んだ雑草には効果が劣るので、時期を失ないように散布する。
- 牧草に使用する場合、
 - 1) 本剤はクローバに薬害を生じるので、これらの牧草には使用しない。
 - 2) 本剤は茎葉処理剤なので、ギンギシの葉が展葉してから散布を行う。
 - 3) 本剤の散布後 21 日間は採草及び放牧を行わない。
 - 4) 一年生牧草には一年生牧草の 5 葉期以降に使用する（薬害）
 - 5) 多年生牧草の新播草地では薬害のおそれがあるため、0.5～1g の薬量で使用する。
 - 6) 0.5～1g の薬量で使用する場合は、実生以外のギンギシ類には効果が劣るので、実生のギンギシ類に対して使用する。
 - 7) 本剤の新播草地定着後の散布適期はギンギシ類草丈 20cm 以下であり、生育の進んだ雑草には効果が劣るので、時期を失ないように散布する。
 - 8) 新品種および新草種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 飼料用とうもろこしに使用する場合、
 - 1) 有機リン系殺虫剤との混用および 7 日以内の近接散布はさける（薬害）
 - 2) 薬害を生じるおそれがあるので必ず所定量及び使用時期を守り、均一に散布する（薬害）
- 砂土では使用しない。
- 散布直後に降雨が予想される場合は使用をさける。
- 散布液の飛散や流出によって有用植物に薬害を生じることのないように十分注意して散布する。なお、必要に応じて飛散防止ノズルを使用して散布する。
- 本剤散布に用いた器具類は、タンクやホース内外に薬液が残らないよう使用後できるだけ早く水でよく洗浄し、他の用途に使用する場合、薬害の原因にならないように注意する。
- 散布器具や容器の洗浄水は河川等に流さず、環境に影響を与えないよう適切に処理する。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

安全使用上の注意

- 眼に入らないように注意。眼に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当てを受ける(刺激性) 使用後は洗眼する。

保管…密封し、直射日光をさけ、食品と区別して、冷涼・乾燥した所。

- ラベルをよく読んでください。
- 記載以外には使用しないでください。
- 小児の手の届くところには置かないでください。
- 空袋は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理してください。
- 防除日誌を記帳しましょう。